

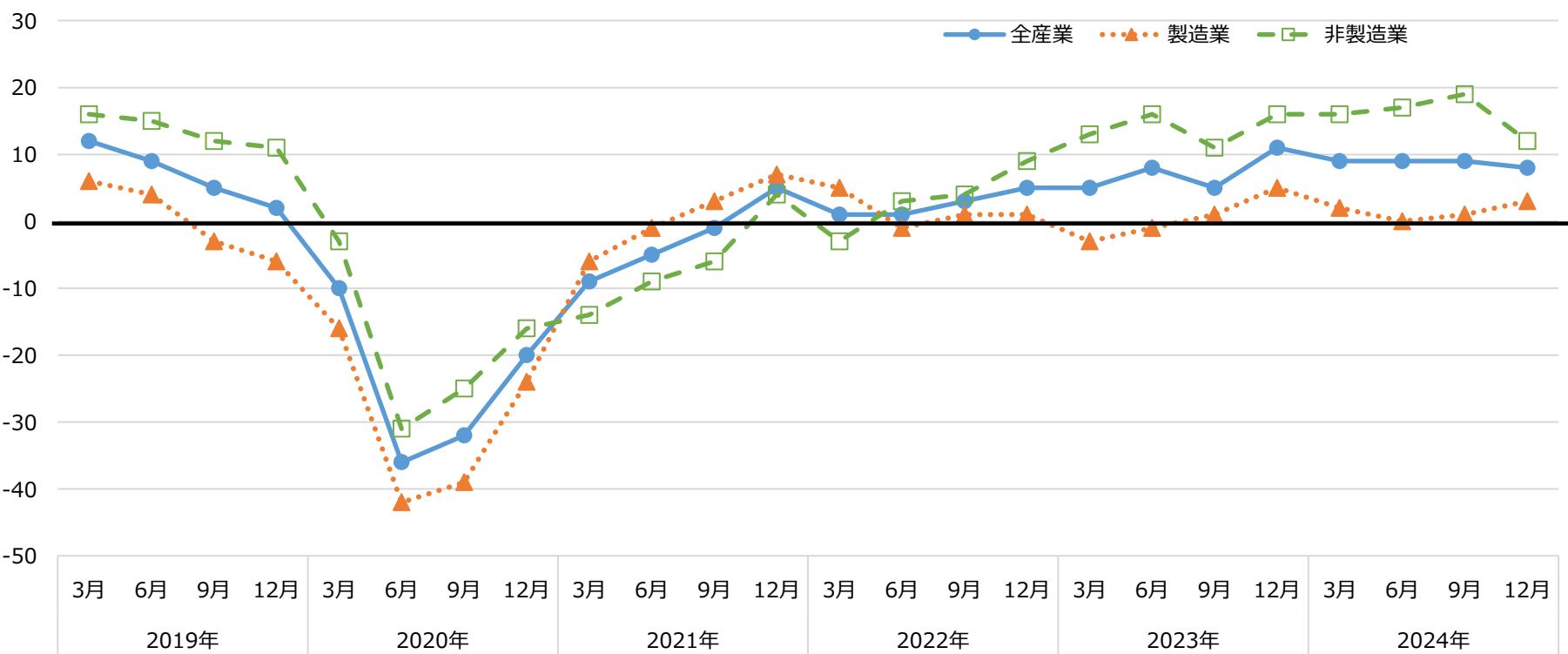
# 大阪都市魅力創造戦略関連施策 を取り巻く状況

---

# 業況判断DI（近畿）

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて企業の景況感（日銀短観 DI）は、2020年3月から6月にかけて急速に落ち込んだが、緩やかに回復。
- 直近ではインバウンドの回復に伴い、非製造業は改善傾向にあり、2023年6月にはコロナ前の水準に回復し、その後も堅調に推移。一方、製造業は原材料高騰の影響もあり、非製造業ほどの回復は見られない。

業況判断DI（近畿地区）

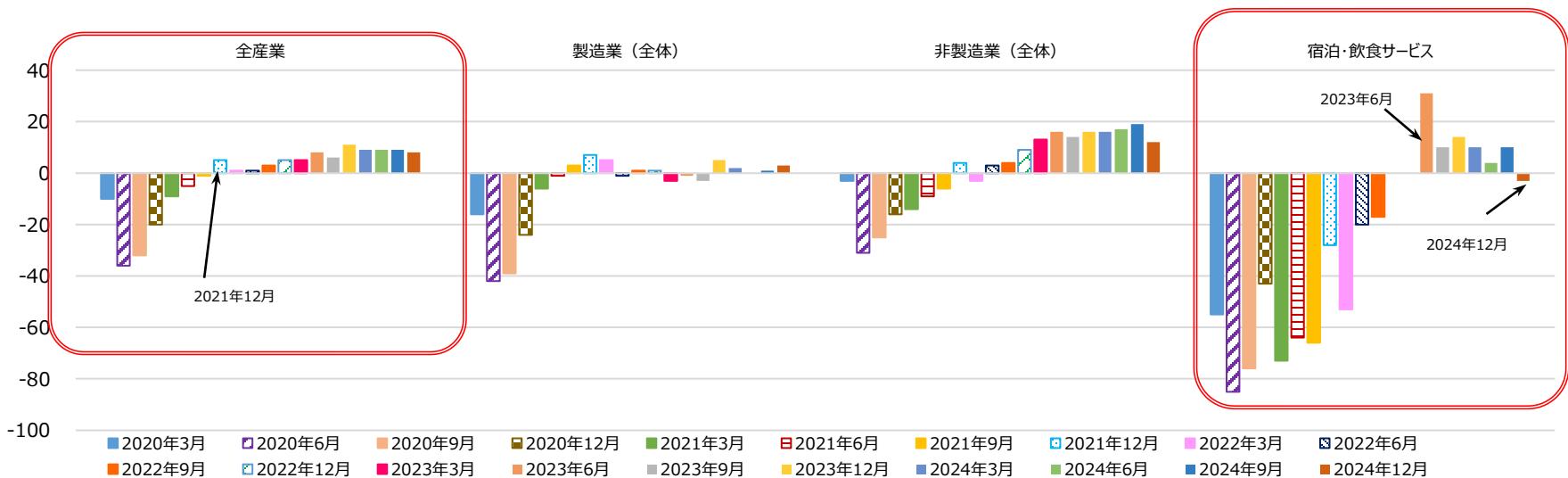


出典：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査（近畿地区）」より作成  
※2024年12月の数値は先行きDI

# 業種別DI（近畿）

- 近畿の景況感は、全産業ベースでは2021年12月から持ち直しの傾向が見られ、その傾向が継続している。
- 非製造業のうち、宿泊・飲食サービスは2023年6月からは大幅にプラスに転じ、その後は、堅調に推移していたが、2024年12月の先行きDIでは、マイナスに転じた

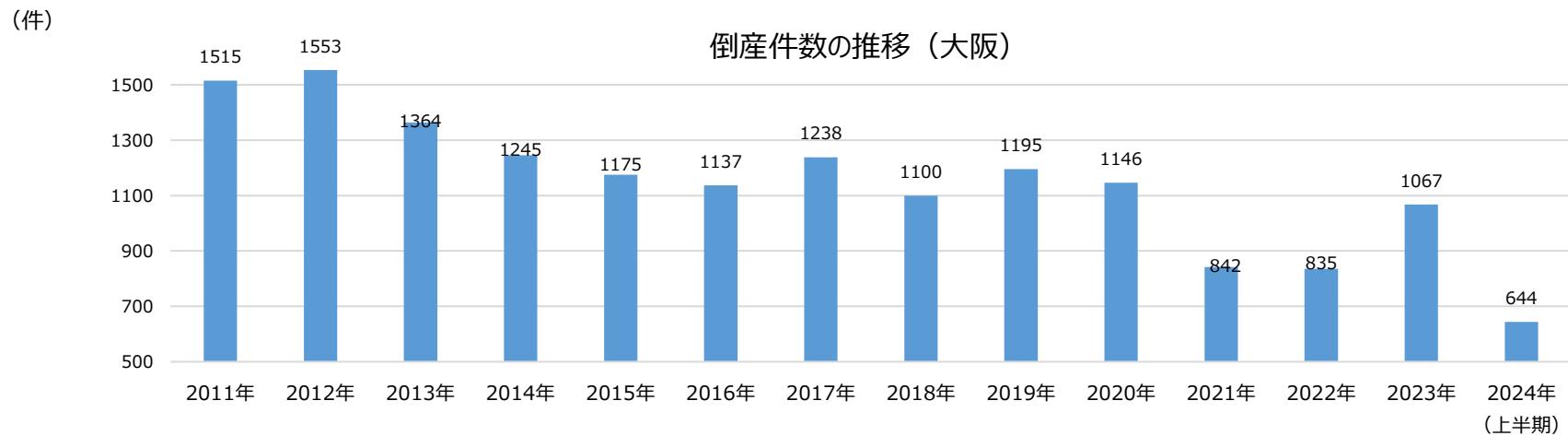
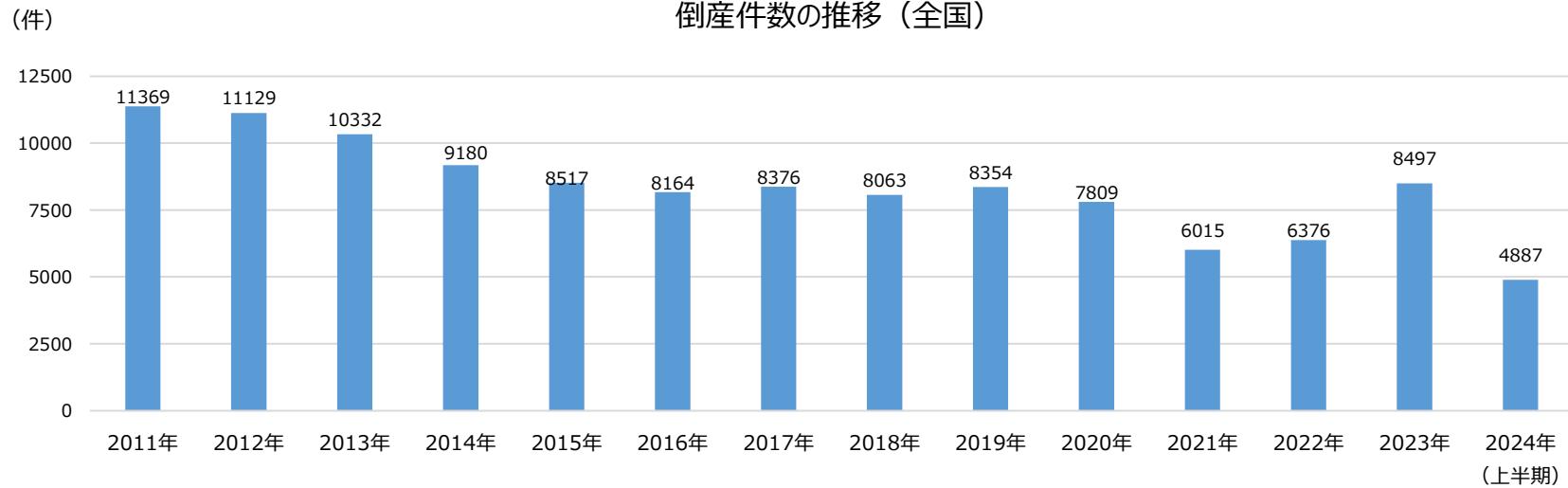
業種別業況判断（近畿地区）〔全産業、製造業、非製造業、宿泊・飲食サービス〕



出典：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査（近畿地区）」より作成  
※2024年12月の数値は先行きDI

# 倒産の動向（全国・大阪）

- 新型コロナウイルス感染症の拡大以降、実質無利子・無担保融資などの資金支援等により2021年、2022年の大阪の倒産件数は減少傾向にあったが、2023年は2019年水準となり、2024年は2023年を上回る水準。



出典：帝国データバンク「全国企業倒産集計」より作成

# 宿泊者数の状況（大阪）

- 2023年には日本人延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数ともに、コロナウイルス感染拡大前を上回る水準となっており、2024年も引き続き同様の傾向が続いている。
- また、客室稼働率も増加傾向で、2024年12月の稼働率（全体）は80.0%であり、全国1位の水準となっている。

（人泊）

延べ宿泊者数（大阪）

■日本人

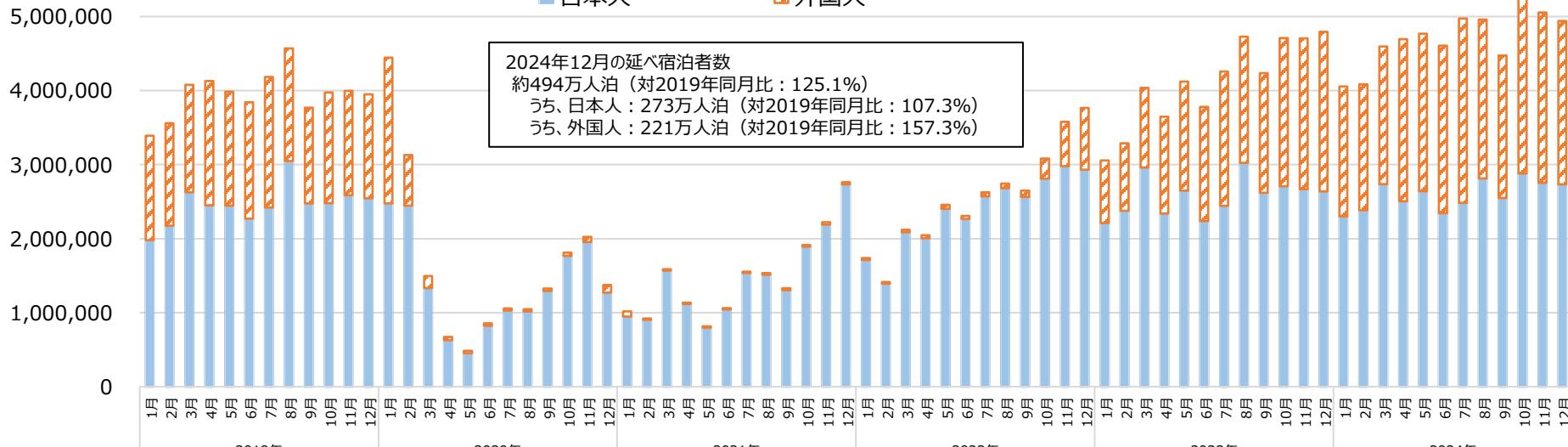
□外国人

2024年12月の延べ宿泊者数

約494万人泊（対2019年同月比：125.1%）

うち、日本人：273万人泊（対2019年同月比：107.3%）

うち、外国人：221万人泊（対2019年同月比：157.3%）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

客室稼働率（大阪）

● 全体

2024年12月の全体客室稼働率

80.0%

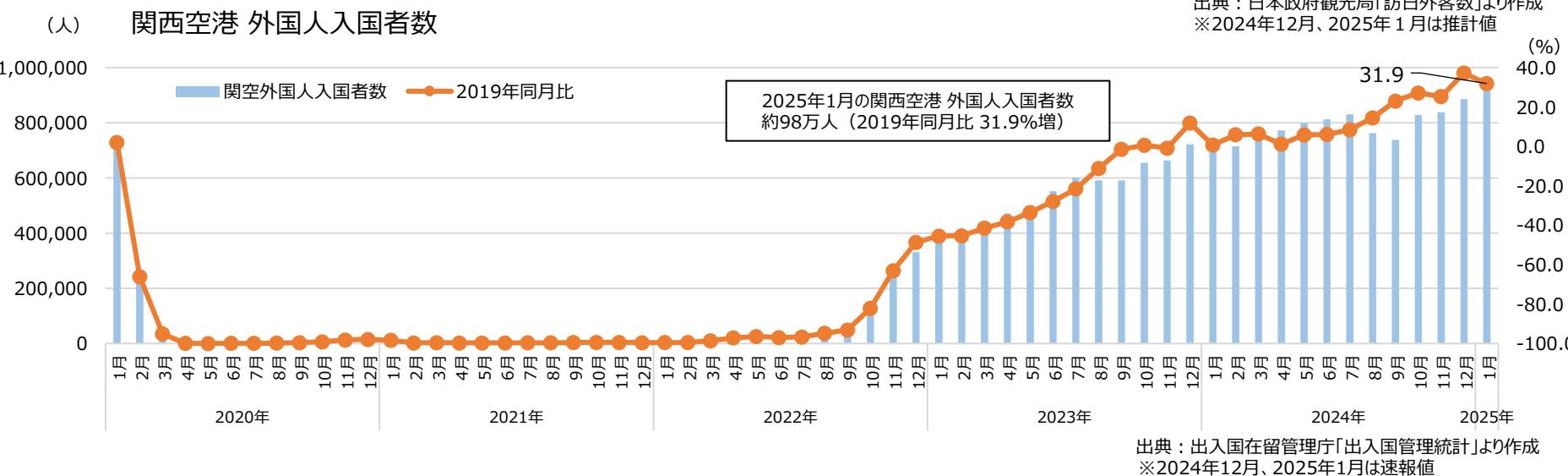
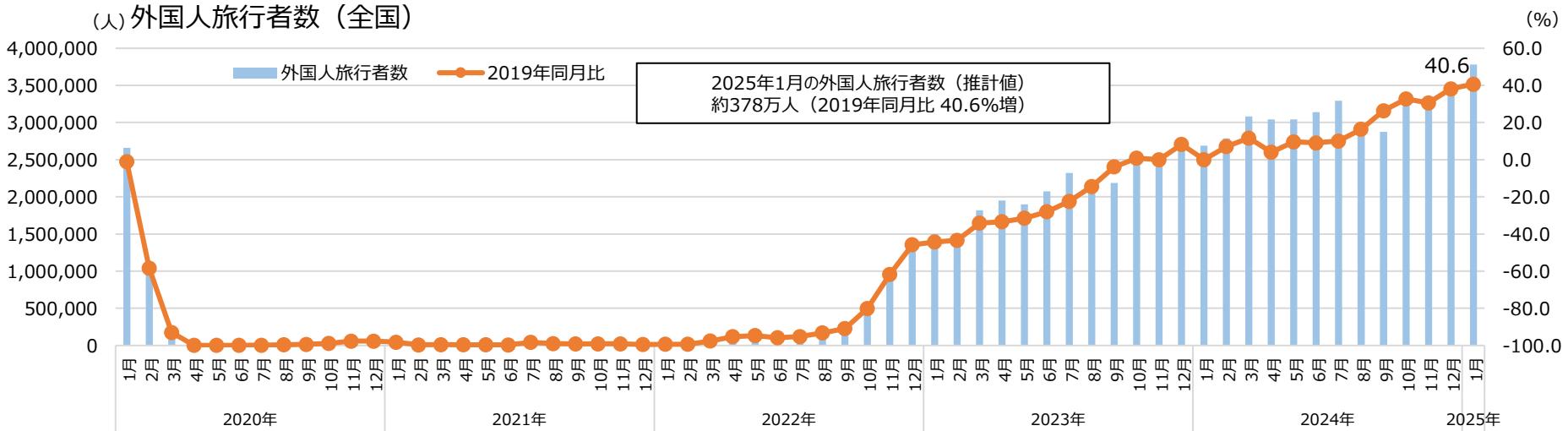
全国1位



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

# インバウンドの状況（全国・関西空港）

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国際的な移動の制約が続き、2020年4月以降、インバウンド需要がほぼ消失。
- 2022年6月から外国人観光客の受入が一部再開され、2022年10月からは入国情者総数上限が撤廃されたことから、外国人旅行者数及び関西空港外国人入国情者数とともに改善傾向にあり、2023年12月以降は、コロナ前を上回る水準で推移している。



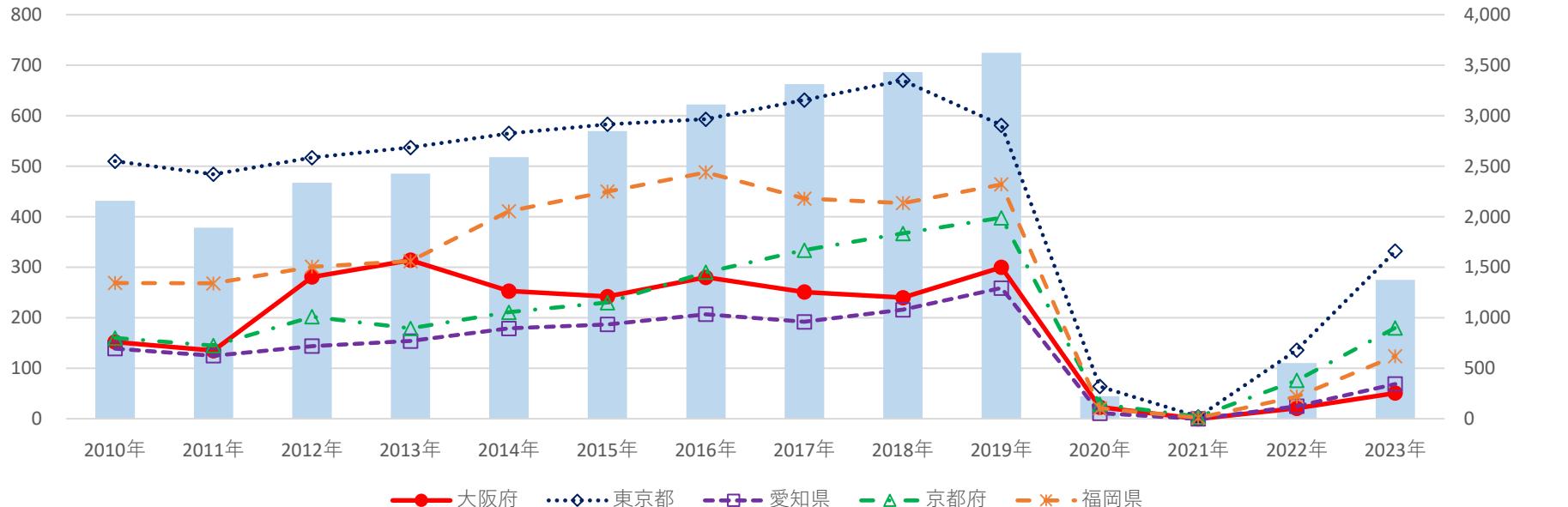
# 国際会議の開催件数（全国・国内主要都市）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、大阪における国際会議の開催件数は大幅に減少している。
- 2022年は増加傾向に転じたが、依然としてコロナ前の水準に戻っていない。

(件：都府県)

国際会議開催件数の推移

(件：全国)

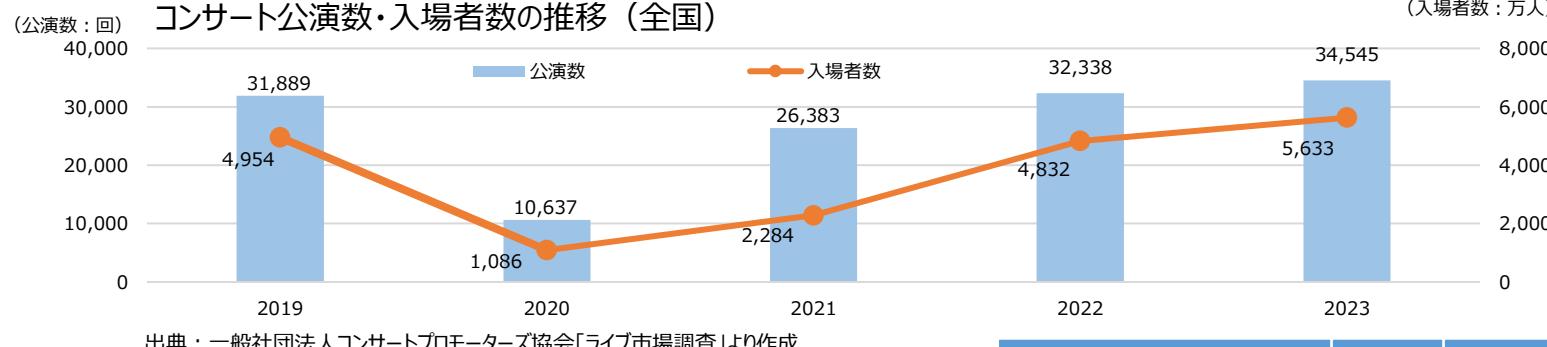


	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
大阪府	152	135	281	314	253	242	280	251	240	300	23	0	21	51
東京都	510	484	517	537	565	583	593	631	670	581	64	4	136	332
愛知県	139	125	144	154	179	187	207	192	216	259	11	0	25	69
京都府	160	145	202	179	211	230	290	334	367	398	29	4	76	180
福岡県	269	268	301	312	411	450	488	436	427	464	21	2	44	124
全国	2,159	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222	29	553	1,376

出典：日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」より作成

# 文化艺术分野の状況

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う開催制限要請（人数上限や収容率等の設定）などの影響により、イベントの中止・延期などが相次いだが、2022年には公演数、入場者数とも2019年とほぼ同水準まで回復し、2023年は入場者数・公演数ともに過去最高の水準となっている。
- 2023年度に文化艺术イベントを直接鑑賞したことがある人の割合は45.3%となっており、その理由としては、「関心がない」が最も高い。



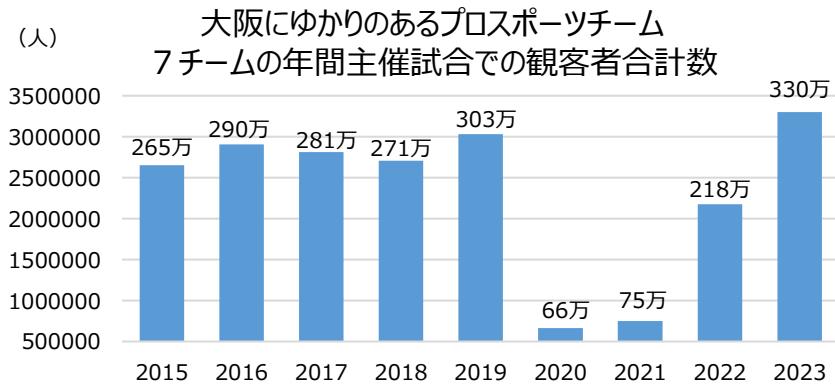
出典：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」より作成

この1年間に直接鑑賞した文化艺术イベント（全国）（単位：%）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	この1年間で文化艺术イベントを直接鑑賞しなかった理由（全国）（単位：%）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
文化芸術イベントを直接鑑賞した	<b>67.3</b>	<b>41.8</b>	<b>39.7</b>	<b>52.2</b>	<b>45.3</b>	関心がない	34.7	23.2	22.8	22.6	23.6
映画（アニメーション映画を除く）	36.2	20.9	17.6	26.2	19.0	近所で公演や展覧会などが行われていない	16.3	13.7	16.3	12.8	15.6
歴史的な建物や遺跡	26.6	13.8	11.6	17.9	15.1	入場料・交通費など費用がかかりすぎる	15.2	8.4	11.9	10.8	14.0
美術	23.6	11.4	10.9	18.4	13.9	時間がなかなか取れない	9.3	6.3	3.4	7.0	10.6
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民俗音楽等	18.5	5.7	8.9	12.3	11.0	新型コロナウイルス感染症の影響により、公演や展覧会などが中止になった、又は外出を控えたから	—	56.8	37.6	29.0	9.1
歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館等	16.5	7.7	6.6	12.6	10.0	一緒に行く仲間がいない	8.1	4.3	5.3	6.1	6.2
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	13.4	4.6	6.1	10.2	9.4	テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる（鑑賞した）ので	11.2	9.0	7.9	6.1	5.7
アニメーション映画	13.9	11.2	9.6	13.1	7.9	魅力ある公演や展覧会などが少ない	11.5	7.4	5.1	5.8	5.3
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	13.4	4.6	6.1	10.2	9.4						
ミュージカル	7.9	3.0	2.7	5.4	4.2						

出典：文化庁「文化に関する世論調査報告書（令和6年3月）」より作成

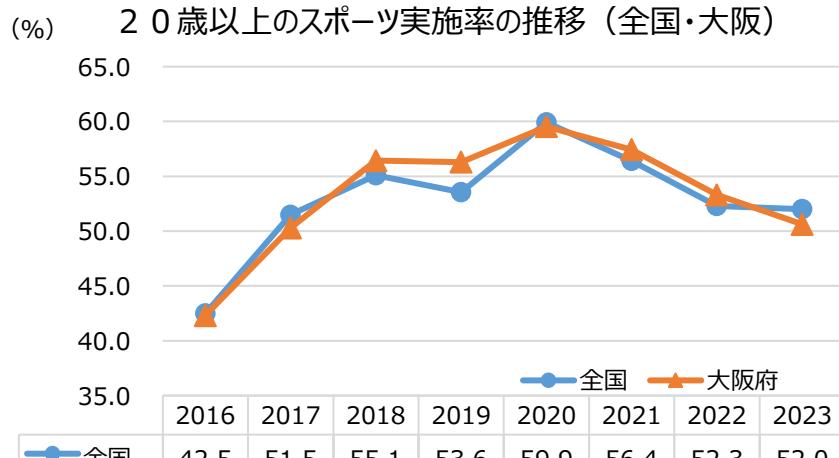
# スポーツ観戦、実施の状況

- スポーツの試合や大会においても中止・延期や無観客での開催などにより、2020,21年度はスポーツを観戦する機会が減少したが、2023年度は、コロナ前の水準を上回る水準まで回復。
- 大阪の20歳以上のスポーツ実施率は、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度に比べて、2020年度は増加したが、2021年度以降は減少傾向が続いている。



7チーム：ガンバ大阪、セレッソ大阪、オリックス・パファローズ、阪神タイガース（京セラドームでの試合のみ）、大阪エヴェッサ、花園近鉄ライナーズ、NTTコモレッドハリケーンズ大阪

出典：各チーム公表資料より作成



出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」  
※大阪の数値は、ロードデータより算出

この1年間に直接現地観戦したスポーツ種目（全国・単位：%）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
プロ野球（NPB、メジャーリーグ含む）	13.7	9.9	6.8	11.2	13.4
Jリーグ（J1、J2、J3）	5.1	3.9	2.8	4.2	4.6
高校野球	4.7	3.0	2.6	4.1	4.1
サッカー日本代表	1.8	1.3	1.3	2.7	1.8
マラソン、駅伝	2.3	1.8	1.1	1.8	1.7
その他野球、ソフトボール	2.1	1.7	1.2	1.5	1.7
ゴルフ	1.9	1.4	1.1	1.5	1.5
ラグビー (トップリーグ、大学・高校ラグビー、海外ラグビーを含む)	2.7	1.9	1.0	1.5	1.5

出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より作成

この1年間に運動やスポーツを実施した理由（全国・単位：%）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康のため	73.9	79.6	76.2	79.4	78.7
体力増進・維持のため	53.9	57.7	52.0	56.3	55.1
運動不足を感じるから	51.5	53.7	48.1	45.4	43.4
筋力増進・維持のため	37.7	40.4	35.7	39.4	38.6
楽しみ・気晴らしとして	43.8	46.0	42.1	40.4	38.3
肥満解消、ダイエットのため	30.4	33.1	29.9	31.2	28.9
友人・仲間との交流として	20.0	16.6	14.7	14.7	13.6

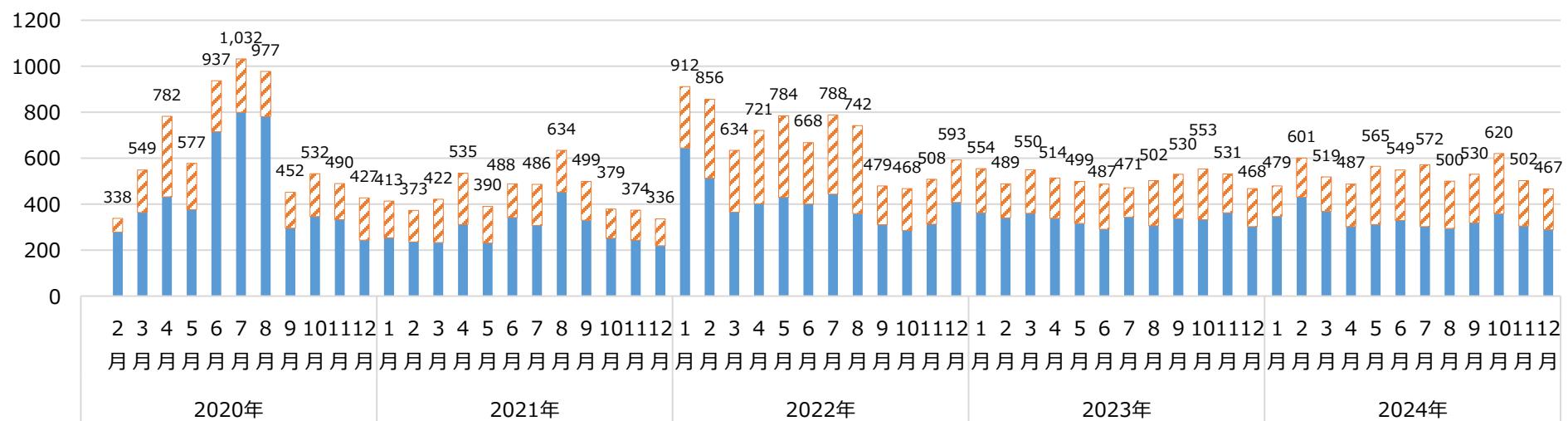
出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より作成

# 外国人相談、留学生の状況

- 大阪府・市の外国人相談において、2020年から新型コロナウイルス感染症関連の相談が急増。  
2022年1月～2月はオミクロン株の影響を受けて相談が増加したが、2022年9月以降の件数は平準化してきている。
- 留学生数は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴う、日本政府及び各国政府による渡航制限等の措置により、減少に転じたが、コロナ前の水準に回復しつつある。

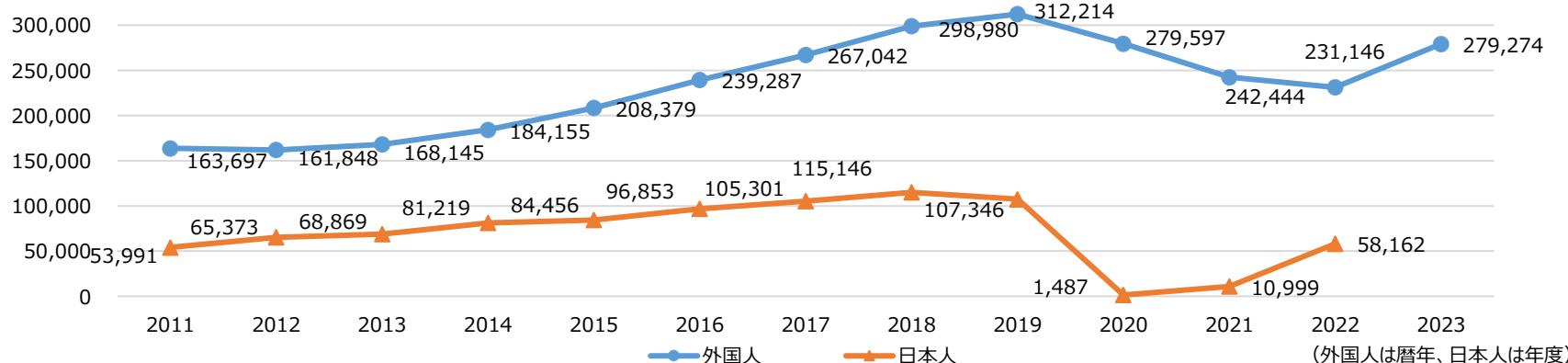
(件)

### 外国人相談における相談実績の推移



(人)

### 留学生数の推移



出典：日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」、「日本人学生留学状況調査」より作成

# (参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析

- シンクタンク等による大阪のポジション、強い分野、今後の方向性等の分析を整理
- 総合的な評価では48都市中37位。比較的優位なものは、「研究・開発」、「居住」の指標

## 「世界の都市総合ランキング 2023」(森記念財団都市戦略研究所)

### 【総合ランキング2023】

	2023	前年からの 変動	2022	2021	2020	2019	1位 ロンドン	21位 ロサンゼルス	41位 ケアラレンプール
分 野 別	総合ランキング	37位	—	37位	36位	33位	2位 ニューヨーク	22位 バルセロナ	42位 福岡
	経済	38位	▲3	35位	37位	38位	4位 パリ	24位 ブリュッセル	43位 メキシコシティ
	研究・開発	18位	—	18位	18位	18位	5位 シンガポール	25位 シカゴ	44位 ブエノスアイレス
	文化・交流	25位	+4	29位	20位	21位	6位 アムステルダム	26位 ジュネーブ	45位 ジャカルタ
	居住	12位	+7	19位	21位	18位	7位 ソウル	27位 サンフランシスコ	46位 ヨハネスブルグ
	環境	41位	▲2	39位	42位	41位	8位 ドバイ	28位 タブリーン	47位 カイロ
	交通・アクセス	37位	+2	39位	39位	35位	9位 メルボルン	29位 ボストン	48位 ムンバイ
							10位 ベルリン	30位 イスタンブール	
							11位 コペンハーゲン	31位 ヘルシンキ	
							12位 シドニー	32位 バンクーバー	
							13位 ウィーン	33位 ミラノ	
							14位 マドリード	34位 モスクワ	
							15位 上海	35位 台北	
							16位 ストックホルム	36位 ワシントン	
							17位 北京	37位 大阪	
							18位 香港	38位 バンコク	
							19位 チューリッヒ	39位 サンパウロ	
							20位 フランクフルト	40位 テラアビブ	

出典：森記念財団 都市戦略研究所「世界の都市総合ランキング2023」より作成

## (参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析（個別分野の視点からの分析）

富山市・大阪市が米有力紙「2025年に行くべき52の場所」に選出されました！



(左) おわら風の盆 © Toyama Tourism Organization (右) グラングリーン大阪 © Akira.Ito.aifoto

1月7日（火）、アメリカのニューヨーク・タイムズ紙より「52 Places to Go in 2025（2025年に行くべき52か所）」が発表され、富山市と大阪市が選ばれました。

記事では、富山市を「2024年に地震と集中豪雨で甚大な被害を受けた能登半島の玄関口で、復興途上にありながらも観光客を魅了している」と評価し、「混雑を避けながら文化やグルメを堪能することができる」都市として、八尾地区のおわら風の盆やガラス美術館が紹介されました。

また、大阪市については、2025年4月から10月にかけて開催される大阪・関西万博について触れており、JR大阪駅北側にあるグラングリーン大阪内のうめきた公園を挙げて「先進的な都市の新たな緑地を楽しむことができる」と紹介されています。

出典：JNTO（日本政府観光局）HP

# (参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析（個別分野の視点からの分析）

世界で最も住みやすい都市ランキング 2024 ※英誌「エコノミスト」		世界の都市の安全指数ランキング2021 ※英誌「エコノミスト」	世界で最も魅力的な都市ランキング 2024 ※米誌「コンデナスト・トラベラー」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年2位、2022年、2023年10位。</li> <li>・治安、医療、教育において高評価</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回3位、医療インフラ、インフラの安全性は高評価、個人の安全性やサイバーセキュリティ面はやや低評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国を除く世界の大都市部門において2021年は2位 (2022年、2023年、2024年はランク外)</li> </ul>
<b>順位</b>	<b>都 市</b>	<b>順位</b>	<b>都 市</b>
1位	ウィーン	1位	コペンハーゲン
2位	コペンハーゲン	2位	トロント
3位	チューリッヒ	3位	シンガポール
4位	メルボルン	4位	シドニー
5位	カルガリー	5位	東京
5位	ジュネーブ	6位	アムステルダム
7位	シドニー	7位	ウェリントン
7位	バンクーバー	8位	香港
<b>9位</b>	<b>大阪</b>	9位	メルボルン
9位	オークランド	10位	ストックホルム
		:	:
		<b>17位</b>	<b>大阪</b>

出典：Economist Intelligence「The Global Liveability Index 2024」より作成

出典：第2回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会（2022.1.20）資料より転載

出典：コンデナスト・トラベラー「The Best Cities in the World: 2024 Readers' Choice Awards」より作成

## (参考) 国内の都市ランキング（日本の都市特性評価）

- 森記念財団都市戦略研究所による「日本の都市特性評価2024（国内都市ランキング）」で、東京23区を除く国内136主要都市の中で、大阪市が2021年から4年連続で総合1位にランクイン
- 「経済・ビジネス」、「研究・開発」、「文化・交流」、「交通・アクセス」の4つの分野で高い評価を得た

### ■ 2024年のトップ5

総合順位	総合ランキング		経済・ビジネス		研究・開発		文化・交流		生活・居住		環境		交通・アクセス	
	都市名	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア
1位	大阪市	1,336.9	1位	270.3	6位	66.3	2位	296.4	41位	305.2	80位未満		1位	205.7
2位	名古屋市	1,292.5	4位	218.9	1位	113.5	6位	179.1	1位	337.6	80位未満		2位	197.4
3位	横浜市	1,284.9	3位	221.9	5位	69.1	3位	285.2	61位	293.9	59位	276.6	10位	138.2
4位	京都市	1,268.1	60位	157.7	2位	94.9	1位	319.5	43位	302.9	80位未満		7位	144.8
5位	福岡市	1,256.5	2位	231.9	4位	71.7	4位	188.6	19位	318.9	80位未満		3位	186.4

### ■ 「日本の都市特性評価（国内都市ランキング）」とは

- 一般社団法人 森記念財団 都市戦略研究所が、国内都市の総合力を毎年度評価し、公表（最新版は2024年版）
- 対象都市は、東京を除く国内136の主要都市。（対象都市：政令指定都市、県庁所在市、人口17万人以上の都市）  
※東京23区は別途評価
- 6分野、27指標グループで評価しており、総指標数は87